

# 作文コンクール 佳作

## 「北方領土問題について」

斑鳩町立斑鳩中学校 栗原 美咲

北方領土とは、北海道の北東にある択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島の四つの島で日本固有の領土のことです。

これらの島は水産資源が豊富な土地で沢山の日本人が過ごしていました。しかし、1939 年から 1945 年に起こった第二次世界大戦をきっかけに、北方領土はロシアに不法に占拠されたまま、今もなお続いています。

面積はおよそ 5000 km<sup>2</sup>で千葉県や愛知県と同じくらいです。

私はある一つの考えが思いつきました。それは、ロシア人と日本人の共存です。理由は二つあります。一つ目は、北方領土問題はどのような結果であっても両国民が納得しないからです。四島が日本に返還されたとしてもその土地に住んでいたロシアの人々はどうなるか考えたことがありますか。答えは、かつて日本人が故郷を追われたのと同じように、ロシアに帰らなければいけなくなります。二つ目は、互いに支えあうことでどちらの国にもメリットがあるはずだからです。まず、日本側のメリットは漁業範囲と貿易の規模の拡大、何よりも北方領土に住んでいた人々が故郷にやっと帰ることができます。一方、ロシア側のメリットは日本と同じように、貿易の規模の拡大と日本からの投資や援助も期待できます。

このように、沢山のメリットを互いに得ることができると私は考えました。共存を実現させるためには、一人一人が北方領土問題に関心を持ち、故郷を追われた人々の気持ちを知り、みんなが声をあげることが大切です。

「塵も積もれば山となる。」

このことわざのように、塵のように小さな一人の願いだとしても全員が解決を願えば山となり、政府の方々がきっと解決してくださると期待しています。

解決について淡々と述べてきましたが、簡単なことではありません。ロシアにとっては戦争で勝ちとったものであっても、日本にとっては平和を突然奪われてしまったも同然の出来事です。だからこそ、この長い道のりに目を背けず解決するその日まで真剣に向き合い続けることが、日本にとってもロシアにとっても良い結果に近づく一歩です。共存できるその日を期待しています。